

2022年フランス年間興行成績No.1
10週連続トップ10入り、240万人動員のロングランヒット!



世界を変えた、崇高なる不屈の魂

監督 オリヴィエ・ダン
フランスに最も愛された政治家
シモーヌ
ユタヤ系フランス人のシモーヌは、17歳の時にアウシュヴィッツ収容所に送られ、母を亡くしますが、姉とふたり奇跡的に生き延びました。戦後はパリの大学で学び、結婚して3人の子を産んでから弁護士に、後に司法官になり、刑務所の環境改善、アルジェリア独立運動で捕えられた女性やエイズ患者、移民など弱者の人権を守るために

その誇り高き生き方に 胸が熱くなる感動の物語

「シモーヌ フランスに最も愛された政治家」

「16シムス」が「えい」が

代議長シモーヌ・ヴェイユ（1927年〜2017年）を描き、フランスで大ヒットした作品です。2023年8月に大阪で上映。
ユタヤ系フランス人のシモーヌは、17歳の時にアウシュヴィッツ収容所に送られ、母を亡くしますが、姉とふたり奇跡的に生き延びました。戦後はパリの大学で学び、結婚して3人の子を産んでから弁護士に、後に司法官になり、刑務所の環境改善、アルジェリア独立運動で捕えられた女性やエイズ患者、移民など弱者の人権を守るために

この作品は、シモーヌが自伝の執筆を前にして過去を回想するという構成で、仕事（政治）のこと、家族のことなどで、様々なエピソードを積み重ねて作られています。その上で、時系列を無視し大胆に時代を行き来して語られます。一貫して弱い者のために闘い、暴力に反対した強い信念と意志は、収容所での過酷な体験と深く結びついており、その経験を語り継ぐことの大切さを伝えています。本人と親交があったエルザ・ジルベルスタインが1968年以降のシモーヌを演じました。



縄文時代に人々が生活を営んでいたんですね
(石川河川公園・サイクル橋付近)

大阪大谷大学博物館
近鉄長野線「滝谷不動」駅下車、徒歩約7分
富田林市錦織北3丁目11-1
TEL: 0721-124-11039

富田林市内を南北に流れる石川の両岸と、その背後の丘陵を中心に縄文時代から近世にかけて数多くの遺跡が分布しています。
市内初の埋蔵文化財（埋文）発掘調査は1959年に新堂廃寺跡で行われましたが、1960年代から市内各地の丘陵地で宅地造成が進んで多くの遺跡が破壊されました。この時期は、大阪府や教育機関、研究者

が緊急調査を担当していました。1971年から1976年にかけて、市内を一边200メートルのメッシュに区切って遺物が落ちていないかを歩いて調査し、遺跡数が調査前の約5倍にも増え、埋文調査を大きく進展させることができました。この調査を富田林高校と河南高校の考古学クラブ員が担いました。このように発掘調査で多くの遺物が発掘されましたが、文化財を展示することができる市立博物館の機能を有する施設がなく、富田林市としても大きな課題です。

うちの近所 コレイチ

わが町 自慢紹介 120



数多くの縄文からの遺跡 富田林市の歴史を感じて

Culture Navi かるちがーたふ

作りませんか



タンドリーチキン

岸和田市職労 学校支部 給食分会

協力：現業評議会・給食部会



材料（4人分）

鶏もも肉（一切れ20g程度）240g、塩少々、こしょう少々、プレーンヨーグルト大さじ2、カレー粉小さじ2分の1、ケチャップ小さじ2、ウスターソース小さじ1、濃口しょうゆ小さじ2分の1

作り方

- 鶏肉に調味料を合わせて30分ほど漬け込む。
- 250℃のオーブンで15分程度焼く。
（※フライパンで焼く時は、弱火でふたをして8分、ひっくり返して5分程度焼く）
オーブンの温度と時間は機種によって違うので、様子を見ながら中までしっかり火を通す。
※付け合わせは、野菜の洋風煮です（写真右下）。

心に響くひとこと

「能登に帰りたい」という
声に寄り添い、支えていく

黒岡 有子さん
(ソーシャルワーカー 石川県在住)

新年早々に発生した能登半島地震。今なお断水が復旧しない地域があり、避難生活を送ってられる方がおられます。住み慣れた地に「帰りたい」という思いは当然です。ところが、「税金を投入してまで過疎地を復興する必要があるのか」という議論もある中で、現地のソーシャルワーカーは、目の前の被災者のために懸命に奮闘。公共を担うのは公務員だけではないことを実感します。ともにがんばりたい。

今月の 記念日

6月24日
ドレミの日

この日は洗礼者ヨハネの誕生日です。イタリアの僧侶グイード・ダレッツォ（991年～1050年）が「聖ヨハネ賛歌」の合唱指導時に「一定の規則」に気づきました。その曲の各小節の最初の音にあたる歌詞に「ド・レ・ミ・ファ・ソ・ラ・シ」と名づけたのがドレミ音階の始まりで、「ドレミの日」に制定されました。米国ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」（1959年初演）で、マリア先生が子どもたちに音の名前（ドレミ…）を教える劇中歌。日本の「ドはドーナツのド…」の歌詞は、1961年ジャズ歌手のベギー・葉山さんによるものです。いまでも子どもたちが大好きで、保育所でもみんなで楽しく歌選びの定番ですね。